市議会議場で いじめをなくそう子ども会議を開催

7月5日に、いじめのない学校・学級を築くために必要なことを話し合う「あきる野市いじめをなくそう子ども会議」が、市役所の市議会議場において行われました。

いじめ問題の取組に当たっては、「いじめを生まない土壌づくり」が何よりも重要となります。

いじめの未然防止の取組を推進するために、本会議前の6月に「いじめをなくすために、一人一人ができること」のテーマのもと、市内全校・全学級においていじめ防止に関する学習を実施しました。児童・生徒は学習を通して、自分や相手を大切にすることや多様性を尊重すること、いじめを未然に防止するために一人一人ができることについて学習しました。

会議当日は、中学校区ごとに分かれ、各学校が現在どのような取組をしているかについて紹介した後、テーマに沿っていじめに対する未然防止に向けた取組などについて真剣に考え、提言を作成しました。「立ち止まってみる相手の心」「心優しく笑い合える学校」など、様々な提言が発表されました。

栗原市友好親善交流会

8月6日・7日、あきる野市の姉妹都市である宮城県栗原市から訪問団を迎え、友好親善交流会が開催されました。

あきる野市からは、市内中学校生徒会の代表団22人が参加しました。

平成元年、五日市町（現あきる野市）と志波姫町（現栗原市）は、五日市憲法草案の起草者である千葉卓三郎氏が縁となり、友好姉妹都市の盟約を締結しました。それ以来、隔年で互いの市を代表団が訪問し、生徒会交流等を通じて友好を深めてきました。

交流会初日は、中嶋博幸市長、丹治充教育長をはじめ、市内中学校の校長・副校長及び生徒会の代表が訪問団をお迎えし、歓迎式を行いました。その後、各校の生徒会代表が6グループに分かれ、「私たちの学校自慢」をテーマに、各学校の取組や特徴等を紹介し合いました。活発な質問や意見交換が行われ、とても充実した交流会となりました。

交流会終了後、バスでふるさと工房に移動し、日本伝統工芸和紙である「軍道紙」の紙すきを体験しました。

交流会2日目は、五日市郷土館を見学し、市民解説員の方から、五日市憲法草案の関係資料等について丁寧に説明していただきました。来年度は、栗原市をあきる野市の代表団が訪問することになります。

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

本市の全体的な傾向

▼教科調査〔国語、算数・数学〕 小・中学校共に全ての教科調査において、全国平均正答率を下回りましたが、前回調査と比べると、全国平均との差が、中学校国語（0.7%）、中学校数学（1.5%）で縮まりました。

▼質問紙調査〔主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況〕 小学校では、昨年度と比較して、協働的な学びに関する質問〔図1⑤〕について5.2%、中学校では、個別最適な学びに関する質問〔図2④〕について6.3%、協働的な学びに関する質問〔図2⑤〕について1.2%改善されました。

成果と課題

成果 昨年度課題であった、「話し合う活動で自分の考えを深めること」の改善に向けて児童・生徒同士が互いの考えを伝え合う機会を増やすなど、協働的な学習活動を取り入れた授業に取り組んできました。また、個別最適な学びを取り入れた授業について、市研究推進校をはじめ、各学校で授業実践を積み重ねてきました。その結果、中学校における授業改善が、平均正答率の向上につながりました。

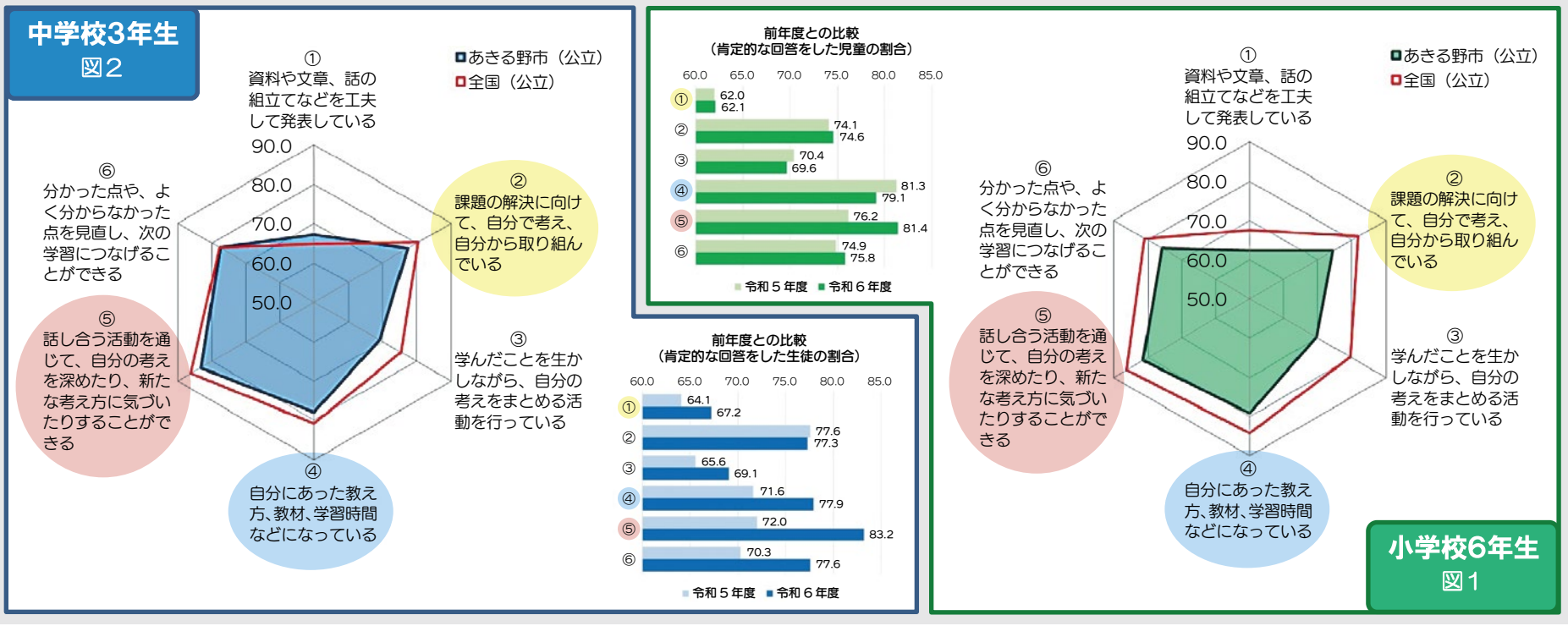
課題 教科調査の結果から、児童・生徒の学力層（※）は、小・中学校共にD層の割合が高く、A層、B層の割合が低い傾向がみられました。これらのことから、学校では、D層の児童・生徒に基礎的・基本的な学習内容に関する支援が必要と考えています。また、A層、B層の児童・生徒に対しては、基礎的な学習内容を活用する力を身に付けさせるため、様々な課題に触れさせ、課題解決に向けて取り組む力〔図1②・図2②〕を身に付ける必要があると考えています。

一方、基礎的・基本的な知識や技能は、学校の学習時間だけでは充分に身に付かないこともあるため、家庭学習等によって定着を図る必要があります。

※本調査の集計対象（全国）となった児童・生徒全員の正答数分布の状況から正答数の高い順に、学力層AからDに分類したもの

今後の取組

児童・生徒一人一人が、学習到達度等に応じ、自分に最適な学びを自己調整できるよう、学習方法、学習時間、教材等の柔軟な提供・設定を行っていきます。

また、探究的な学習や体験活動等を通じ、児童・生徒同士や多様な他者と協働しながら学習する協働的な学びを、引き続き推進していきます。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業に関する取組状況について肯定的な回答をした児童・生徒の割合（%）